

撮影者：院長 杉山 政則

CONTENTS

【東京労災病院診療科のご案内】

- ▶ **脳神経外科**：地域連携による急性期治療から復職までの支援
- ▶ **消化器外科**：消化器疾患全般にわたって対応
- ▶ **呼吸器外科**：当院は東京都がん診療連携協力病院（肺）に指定されています
- ▶ **整形外科**：骨粗鬆症治療継続と二次性骨折予防推進の新たな地域医療連携体制の構築
- ▶ **中央臨床工学部**：いのちのエンジニア 中央臨床工学部の紹介
- ▶ **放射線治療科**：その「がん」、放射線治療がお役に立てるかもしれません！

当院は東京都災害拠点病院に指定されています

- 2024年1月12日～17日、当院のDMATが能登半島地震の災害医療のために出動しました。
- 2024年1月2日の羽田空港航空機事故の際に、一二次救急患者搬入に備えて臨時対策本部を設置しました。結果的には、幸い救急搬入はありませんでした。

東京労災病院は「東京都がん診療連携協力病院（肺がん）」の指定を受けています

当院は呼吸器センターとして、胸部、肺疾患の診断、集学的治療、手術、化学療法、放射線治療、治療後のフォローアップを一貫して行っております。

地域連携による 急性期治療から復職までの支援

脳神経外科領域全般にわたって診療を行っています。常勤医は4名で、昭和大学脳神経外科の連携病院となっています。24時間365日、脳神経内科と協働で脳疾患救急を行っています。

【認定施設】

- 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
- 日本脳卒中学会認定研修教育施設
- 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設

【主な対象疾患】

脳血管疾患、脳腫瘍、頭部外傷、てんかん、頭痛、三叉神経痛、顔面痙攣

- 脳血管疾患は直達手術、血管内手術（カテーテル治療）の両方を行っています。
- 脳腫瘍は神経モニタリング、ナビゲーション下の摘出手術、放射線・化学療法を行っています。
- 片頭痛に対する抗CGRP抗体治療を行っています。
- 三叉神経痛、顔面痙攣に対し微小神経血管減圧術を行っています。

【近隣医療機関との連携、治療と仕事の両立支援】

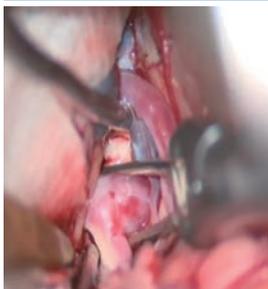
急性期治療後は生活復帰、社会復帰を目標に近隣回復期リハビリテーション病院と連携協力しています。

東京労災病院に入院した就労中の脳卒中患者420名の復職経過を検討したところ、「両立支援コーディネーター」が介入した場合の復職は70.8%、退職は26.9%で、コーディネーターの介入により有意に退職者が少なくなっていました。東京労災病院は「治療と仕事の両立支援」に力を入れており、労働者健康安全機構の両立支援コーディネーター養成研修を担当しています。脳卒中患者は突然の発症で麻痺や高次脳機能障害により復職が困難になり、経済的問題も生じます。発症早期から社会復帰、社会資源を使用した生活復帰ができるよう多職種連携、近隣医療機関との連携を大事にしています。

直達手術と血管内手術

近年の脳血管内手術の進歩により、直達手術と血管内手術双方の利点、安全性、根治性を考慮した治療を行っています。

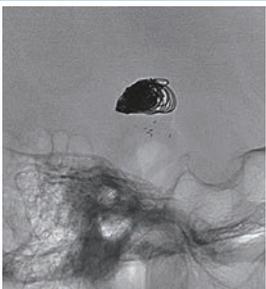
脳動脈瘤に対する治療



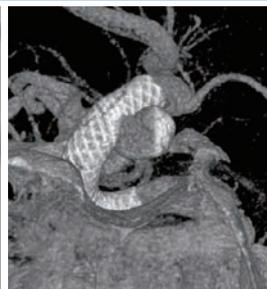
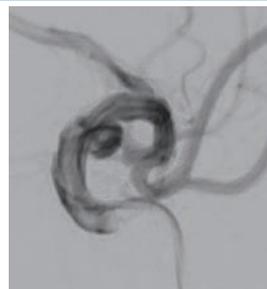
クリッピング



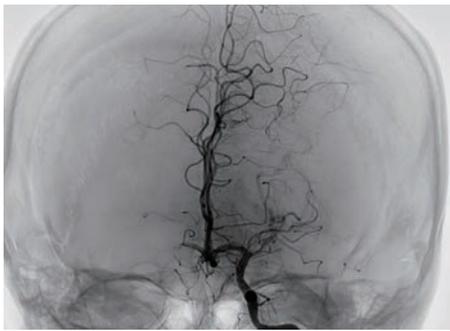
(ステントアシスト) コイル塞栓術



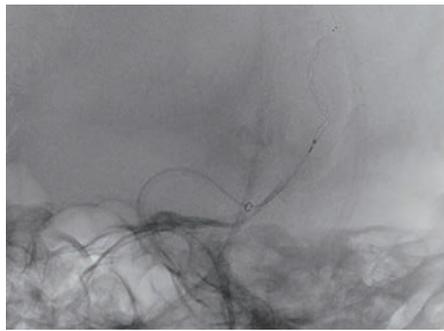
フローダイバーター治療



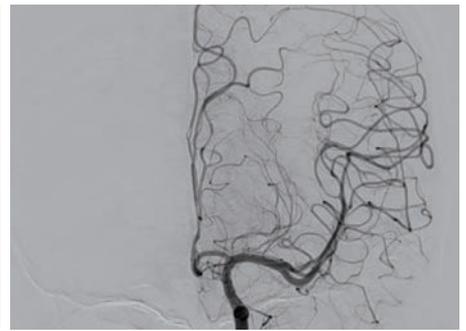
急性期脳梗塞に対する再開通療法



左中大脳動脈閉塞

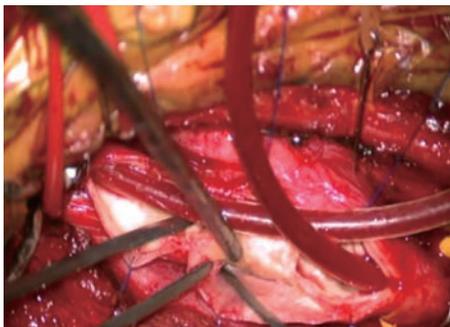


吸引カテーテル、
ステントリトリーバーによる血栓除去



左中大脳動脈再開通

内頸動脈狭窄に対する手術



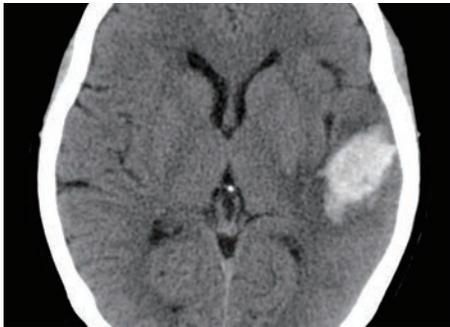
頸動脈内膜剥離術



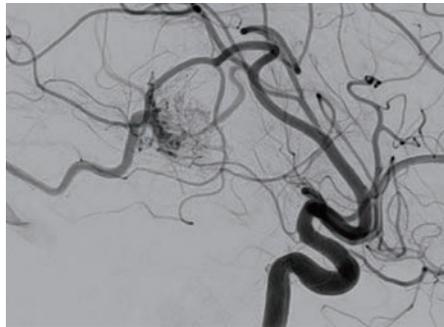
頸動脈ステント留置術



脳動静脈奇形に対する塞栓術と摘出術



脳動静脈奇形による左側頭葉出血



脳動静脈奇形



塞栓術および摘出術

虚血性脳疾患に対する
頭蓋外内動脈吻合術



【脳神経外科部長の紹介】

加藤 宏一 (かとう・こういち)

1996年 札幌医科大学卒

【略歴】

1996年 東京女子医科大学脳神経外科入局
都立墨東病院救命救急センター・脳神経外科
埼玉県済生会栗橋病院 (現、済生会加須病院)、東京労災病院
へ出向

2012年4月 埼玉県済生会栗橋病院 (現、済生会加須病院) 脳神経外科部長

2017年4月 東京労災病院 脳神経外科部長

2018年4月 東京労災病院 治療就労両立支援部長 (兼任)

【専門医、指導医資格等】

- 医学博士 ● 日本脳神経外科学会専門医・指導医
- 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医 ● 日本脳卒中学会専門医・指導医
- 日本脳卒中の外科学会技術指導医 ● 日本頭痛学会専門医
- 日本抗加齢医学会専門医 ● 労災補償指導医 ● 日本DMAT隊員 統括DMAT
- 社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員 ● 身体障害者福祉法第15条指定医
- 日本医師会認定産業医 ● 昭和大学脳神経外科兼任講師



▶ 消化器外科

(部長：小林 隆)

当科は消化器疾患全般にわたって対応できるよう、日本外科学会および日本消化器外科学会の専門医4名を含む計5名で診療にあたっています。うち2名は日本肝胆膵外科学会高度技能指導医・名誉指導医です。

● 当科で扱う主な疾患

【悪性疾患】 胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢／胆管癌、膵臓癌、その他

【良性疾患】 胆石症、鼠径・大腿・腹壁ヘルニア、痔疾患、その他

【救急疾患】 急性胆嚢炎、急性虫垂炎、腸閉塞（イレウス）、消化管穿孔、その他

【その他】 手術だけでなく、消化器悪性腫瘍の化学療法や放射線治療を必要とする患者さんや癌などの終末期の患者さんの診療も行っています。

● 当科の特色

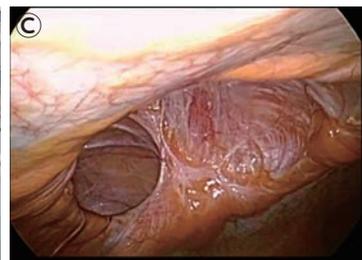
【低侵襲手術を目指した腹腔鏡手術の導入】

胃癌・大腸癌・肝臓癌などの悪性疾患だけでなく、胆石・胆嚢炎、鼠径・腹壁癒痕ヘルニア、急性虫垂炎、腸閉塞などに対して積極的に腹腔鏡手術を行っています。

* 当科は、2023年2月に腹腔鏡下肝切除術（部分切除）の施設認定を受けました。

▶ 手術風景 腹壁癒痕ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア修復術

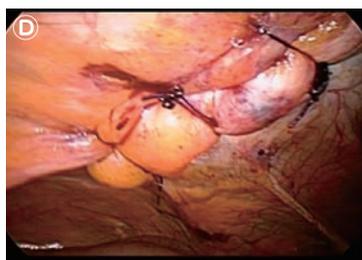
①術前：臍部から右下腹部にかけて巨大な癒痕ヘルニア
②腹腔鏡手術時：気腹でさらに膨隆したヘルニア
③腹腔内から観察したヘルニア門



④まずヘルニア門を縫縮

⑤次にメッシュで補強

⑥手術終了時：ヘルニアの膨隆は消失



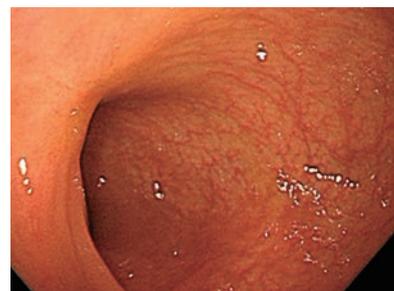
* 従来であれば20cm前後の皮切で行っていた手術が、腹腔鏡だと小さい傷で再発の少ない手術ができます。

【直腸癌に対する術前化学放射線治療（CRT）】

術後の予後改善目的に進行した直腸癌に対しては術前化学放射線治療を行った後に腹腔鏡による根治手術を積極的に行っています。

▶ CRTが効果的だった直腸癌の内視鏡所見

⑦CRT前（半周性の2型の進行直腸癌を認めます）
⑧CRT後（肉眼的に認識困難にまで著明に縮小）



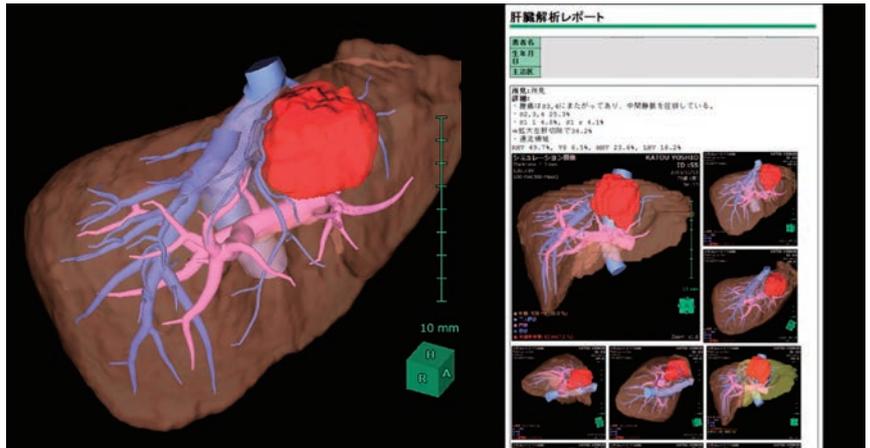
* この後、根治的腹腔鏡下直腸切除術を行っています。

【3D画像解析ソフトを用いた肝臓手術のシミュレーション】

肝臓の内部は、肝動脈・門脈・胆管・肝静脈が複雑に絡み合っているため、肝臓手術においては術中・術後の出血や術後胆汁瘻などの合併症を少しでも減らすために、こうした脈管を丁寧に処理していく必要があります。

3D画像解析ソフトを用いた肝臓手術のシミュレーションを行うことで、腫瘍と肝内の脈管との位置関係を様々な角度からの把握することが可能になりました。術前の段階でこうしたシミュレーションをすることにより外科医全員が共通認識のもと手術に臨めるため、肝臓手術が今まで以上に安全かつ正確に行えるようになりました。

▶ CT画像から構築した肝臓内の3D画像



赤く塗られた腫瘍の周囲を、門脈（ピンク色）や肝静脈（濃い青）が走行している状況を色々な角度から確認することができます。

- *赤：腫瘍、ピンク：門脈、濃い青：肝静脈、淡い青：下大静脈
- *胆管は省略しています。

【ICG蛍光ナビゲーションによる腹腔鏡手術】

近年、術中に消化管（胃・大腸）の血流や肝・胆道の胆汁の流れをリアルタイムに評価できる客観的手法としてICG蛍光ナビゲーションが注目されてきています。

例えば、消化管の手術で消化管再建（消化管吻合）前にICG蛍光法による血流を評価することで術後縫合不全を減らせる可能性が高くなると考えられています。

当院では2023年にICG蛍光ナビゲーションシステムが導入され、当科でも直腸癌手術や肝臓手術・胆嚢手術に積極的に利用しています。

▶ ICG蛍光ナビゲーションによる大腸手術の腹腔内所見

⑧ ICG蛍光により緑色に染まる血流が良好な部分と染まらない血流が少ない部分の境界がよくわかり適切な部位で腸管を切離することができます。

⑨ 一方、ICG蛍光法を用いない通常やり方だと、血流の良好な部位とそうでない部分を肉眼で判別することが困難です。



◇最後に

近年、高齢化に伴い心臓疾患、脳血管障害、認知症、腎機能障害、糖尿病など様々な併存症を有している患者さんが増えています。

当科では様々な併存疾患を有している患者さんが安全に治療を受けられるよう、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士・医療ソーシャルワーカーからなる多職種チームで患者さんファーストの診療を行っています。

消化器外科メンバー

前列左から：秀野部長第三部長、杉山院長、小林部長、
神山第二部長

後列左から：野原副部長、レジデント杉井、安城医員



当院は 東京都がん診療連携協力病院(肺) に指定されています

都区南部地区での指定は当院だけです

呼吸器外科の特徴

- 2名の呼吸器外科専門医が常勤しています
- 外科手術による肺癌の根治治療を目指しています
- ご紹介いただいてから1か月以内に治療を開始します
- 呼吸器内科、放射線治療科とタッグを組み、呼吸器センターとして診療にあたっています
- 患者様の病態（病期／身体機能）に応じた適切な治療計画を検討し、就労や社会的状況なども鑑みた、患者様に寄り添った医療を提供しています。
- 呼吸器内科や放射線治療科と協力して、化学放射線治療を先行しその後に外科切除を行う、または外科切除を先行し術後に化学放射線治療を行う、集学的治療も行っています。

【呼吸器外科部長の紹介】

穴見 洋一
(あなみ・よういち)

- 平成3年 佐賀医科大学卒
医学博士
- 専門医：日本外科学会
日本呼吸外科学会
- 認定医：日本外科学会



直近5年間の当院呼吸器外科での手術件数の推移

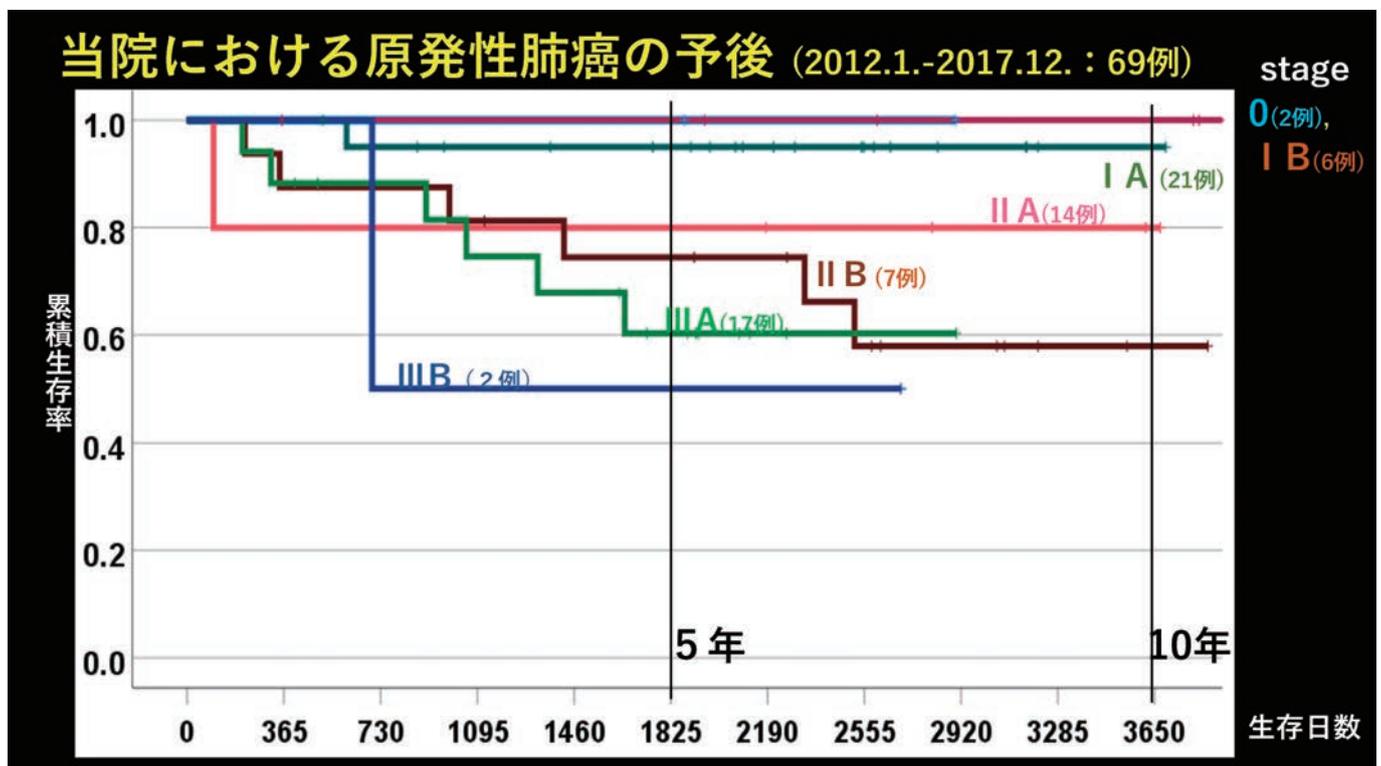
実施年度	コロナ禍 (2020.2.~2023.5.)					
	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (~12月)
原発性肺癌	18	37	30	40	29	19
転移性腫瘍	3	2	3	3	5	3
気胸	7	13	17	13	17	17
縦郭腫瘍・膿胸・その他	7	21	23	15	11	15
合計	35 (2.9/月)	73 (6.1/月)	73 (6.1/月)	71 (5.9/月)	62 (5.2/月)	54 (5.4/月)

コロナ禍で手術件数は減少しましたが、現在回復基調にあります。
これはひとえに近隣医療機関の皆様のおかげです。

当科が対象とする疾患

- **肺癌**：進行度に応じて、区域切除や葉切除を行っています。また当院では進行肺癌に対しては胸骨正中切開での両側縦郭リンパ節郭清術という拡大手術も行っております。
検診/健診や他疾患で撮影された胸部レントゲンやCTで結節影が疑われたら、すぐにご連絡ください。
- **気胸/嚢胞性肺疾患**：若年男性や高齢喫煙者に多く見られます。女性では月経随伴性気胸も見られます。胸部レントゲンやCTで肺虚脱、肺野に透過性の亢進した部位が見られたらすぐにご連絡ください。女性では生理周期に合わせて胸痛がある方がいらっしゃればご連絡ください。
- **転移性肺腫瘍**：大腸癌、腎癌からの肺転移が多いです。若年者では肉腫の肺転移も見られます。癌/肉腫の既往のある方で、レントゲン・CTに変化があればご連絡ください。
- **縦隔腫瘍**：胸部レントゲン正面像では発見されにくい腫瘍です。CTで発見されることが多い腫瘍です。胸部レントゲン正面像で縦隔のシルエットアウトが見られたり、側面像で胸骨裏面に結節影が疑われたらご連絡ください。
- **膿胸・肺化膿症**：抗生物質による治療が困難な場合が多いです。高齢化に伴い増えているようです。→発熱などの炎症症状と胸水が見られたらご連絡ください。

当科で施行した肺癌手術の5年以上の観察期間を設けた術後生存率



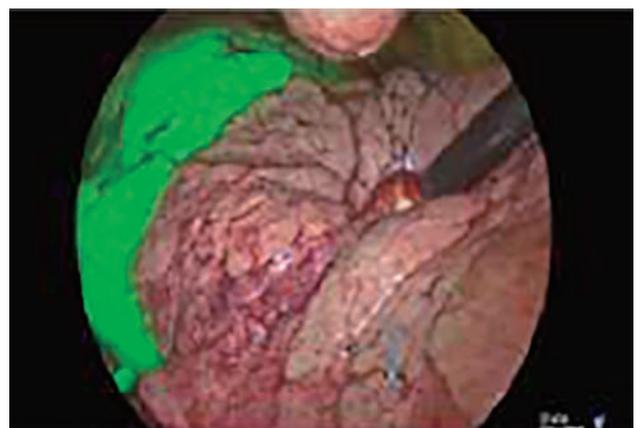
がんセンターや大学病院と遜色ない成績です。適切な治療を行っていることがお分かりいただけると思います。

最近のトピックス

2023年から2cm以下の肺癌に対しては区域切除が標準切除の一つとして加わりました。

当院でもICG対応カメラが導入されたことで区域切除が安全・正確に行えるようになりました。患者様の病期や体力に応じて適切に区域切除を導入していきます。

ICG色素（緑色）を使い肺の区域を染め分けたところ →



骨粗鬆症治療継続と二次性骨折予防推進の 新たな地域医療連携体制の構築に取り組み始めました

当院では、2014年8月から、「手外科センター」を開設しており、多くの手や肘の外傷・疾患を治療してきました。特に橈骨遠位端骨折治療に関して年間50例以上掌側ロッキングプレート固定を施行していますが、術後の骨粗鬆症の治療介入は、行われていない現状がありました。

2022年度の診療報酬改定で二次性骨折予防継続管理料が新設され、以下の3つの算定要件に分けられています。

- イ 二次性骨折予防継続管理料 1
- ロ 二次性骨折予防継続管理料 2
- ハ 二次性骨折予防継続管理料 3

イ=急性期病院 ロ=回復期病院 ハ=外来・診療所

急性期～維持期まで、二次性骨折予防への取り組みが診療報酬で評価される仕組みです。

当院でも骨折リエゾンサービス (FLS) チームを設立し、二次性骨折予防継続管理料を算定した上で、今後は診療所と当院との連携を推進していきたいと考えております。



～二次性骨折予防継続管理料3を算定される医療機関様へ～

「二次性骨折予防継続管理料1」を算定している患者様には「二次性骨折予防継続管理料算定連絡票」を添付しております。詳しくは当院ホームページもご参照ください。



【FLS チームメンバー】

骨粗鬆症学会認定医 (2名)

平澤 英幸

熊谷 圭一郎

看護師、薬剤師、放射線技師

管理栄養士、理学療法士、事務員

		月	火	水	木	金
外 来	1診		山本	楠瀬 安田 (予約外は 受付不可)		山本
	2診	浅沼			浅沼	
	3診	平澤	熊谷		平澤	熊谷
	4診	石塚	専攻生			石塚
	5診		漆原 (脊椎)			井下田

▶ 中央臨床工学部

(部長：八巻 学)

～いのちのエンジニア～ 中央臨床工学部 紹介

臨床工学技士とは

臨床工学技士って病院でどんな事をしているの？と思われる方々も多いと思われるので、はじめに臨床工学技士について簡単に説明したいと思います。

病院内には様々な医療機器があり、ドラマの手術シーンや病室にも必ず医療機器が映っていると思います。臨床工学技士は「生命維持管理装置」人工心肺装置や人工呼吸器、透析装置をはじめとした生命に直結する医療機器を中心に様々な医療機器の保守管理、操作をする職種です。医療機器は日進月歩で発展し、高度化・複雑化しているため、機器のスペシャリストとして医療従事者が安全に医療機器を使用する事ができ、その先には患者さんの安全と安心につながるよう努めている職種です。

当院のスタッフ数と業務内容について

当院は、7名（嘱託職員1名含む）の臨床工学技士が各部門で業務しています。

業務内容	
● 循環器科業務	心臓カテーテル検査、冠動脈インターベンション、ペースメーカー関連業務、カテーテルアブレーション、ECMO（体外式膜型人工肺）などの機器操作や介助
● 血液浄化業務	血液透析（穿刺を含む）、血漿交換、免疫吸着、腹水濾過濃縮再静注などの各種血液浄化
● 集中治療室業務	持続緩徐式血液濾過透析、エンドトキシン吸着、人工呼吸器、生命維持管理装置操作点検
● 医療機器管理業務	輸液・シリンジポンプ、ベッドサイドモニタ、人工呼吸器などの保守・管理・点検 医療従事者への医療機器操作サポートや指導



○ 放射線治療のご紹介をお待ちしております

その「がん」、放射線治療が
お役に立てるかもしれません！

【特徴】

がんを正確に狙い撃ちし、体への負担が少ない“切らない”がん治療です。
平日1日1回、通院で働きながらの治療が可能です（※抗がん剤併用を除く）。
根治治療だけでなく**症状緩和**、一部**良性腫瘍**にも役立ちます。

【目的】

放射線療法目的別名称と目標

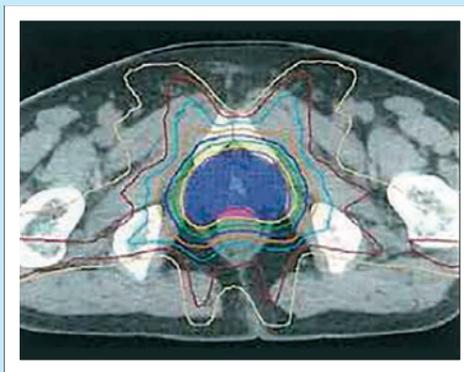
- **根治的放射線療法**：
目的：がんの治癒・明らかな長期生存を目指す
目標：大量の放射線を、高い位置精度で照射する
- **緩和的放射線療法**：
目的：がんによる苦痛を低減し、QOLを維持する
目標：必要最小限の放射線を、可及的早く照射する
- **緊急放射線療法**：
目的：急速に悪化する重篤な症状や生命に関わる危機を回避する
目標：24～72時間以内に緩和的放射線療法を行う
公益社団法人 日本放射線腫瘍学会作成資料より

【具体的には・・・】

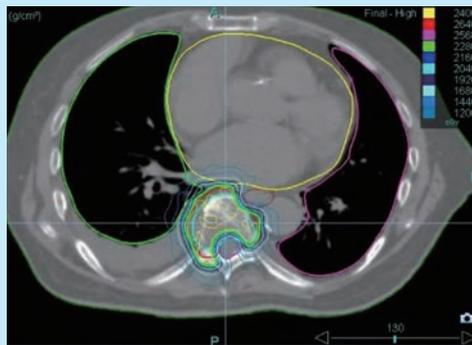
- ① **ほとんどの固形がん**
脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、
肝臓がん、膵臓がん、前立腺がん、子宮がん etc…
→ 照射回数 25～35回（定位照射では1～8回）
- ② **緩和治療**
がんに伴う痛み、気道狭窄、通過障害、出血、上大
静脈症候群、脊椎転移による脊髄障害 etc…
→ 5～15回（定位照射では2回）
- ③ **良性腫瘍**
ケロイド、甲状腺眼症、動静脈奇形、髄膜腫、聴神
経腫瘍 etc…

【治療例】

① 前立腺がん



② 骨転移



定位照射など高精度治療も行っております

- ◎ 診療を希望される際は、事前に**地域医療連携室**にご連絡をお願いいたします。
緊急の場合は**当日でも対応いたします**。お電話でご相談ください。
その他、適応のご相談だけでも構いません。
※**当院救急車等によるお迎えや、入院での治療も可能です**。

東京労災病院放射線治療科では 定位放射線治療を実施しております

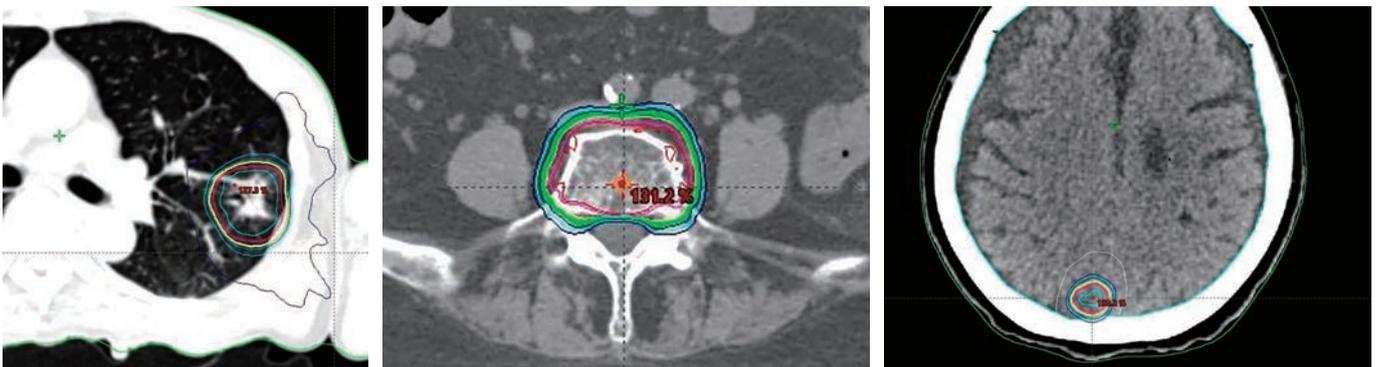
定位放射線治療の特徴

1. 「切らない」がん治療
2. 通院で、短期間で治療できる
3. 病変への高い線量集中性

【当院で治療可能な疾患】

- 原発性肺がん（長径5cm以内かつ転移のないもの）
- 転移性肺がん（長径5cm以内かつ3個以内、他病巣のないもの）
- 転移性脳腫瘍（長径3cm程度まで、1～2個、良好な全身状態）
- 原発性肝細胞がん（長径5cm以内かつ転移のないもの）
- 転移性肝腫瘍（長径5cm以内かつ3個以内、他病巣のないもの）
- 転移性脊椎腫瘍（長径5cm以内）

（今後、前立腺がんへの照射を予定しております）



【具体的には…】

- 治療回数：3～5回程度（病変の部位や大きさなどによって異なります）
- 通院可能 ※入院をご希望される場合は事前にご相談ください
- 照射範囲のずれを5mm以内にする技術を複数使用

【放射線治療科 医師の紹介】

西村 恵美（にしむら えみ）

- 専門医・認定医等：
放射線治療専門医



【ご紹介について】

◎事前のご予約をお勧めいたします◎

診察のご予約

「地域医療連携室」にて電話予約を承ります。

電話番号：**03-3742-7129**（直通）

受付時間：月曜日～金曜日 8：15～17：00

* ご予約は、受診希望日の前日15：00までとなります。

* 「眼科」は診療体制の都合上、月・水曜日8：15～11：00
の間に直接ご来院いただきますようお願いいたします。

診察予約が無い場合

受付時間：月曜日～金曜日 8：15～11：00

受付時間内に総合受付①番窓口へお越してください。

救急のご依頼

「地域医療連携室」へご連絡ください。

電話番号：**03-3742-7129**（直通）

夜間・休日は救急受付にて対応いたします。